

地域での親子観察会の開き方

～四街道プレーパークどんぐりの森に学ぶ～

佐口 美智子（千葉市）

日 時：2011 年 8 月 6 日(土)午前 10 時～午後 3 時

講 師：午前 古川美之、佐藤哲司、真鍋昌義、午後 古川美之

場 所：午前 四街道プレーパークどんぐりの森

午後 四街道市南部総合福祉センターわろうべの里

参加者：赤木、伊藤(道)、大山、小川、小沢、河添、小西、佐口、佐藤(哲)、荘子、末永、高井、晝間、古川、松川、真鍋、八木(千)、和田 18 名

今回の会場「四街道プレーパークどんぐりの森」はJR四街道駅から徒歩 20 分の住宅や商業施設、畑 や神社などに囲まれた池や高い木々がたくさんある所でした。

午前はプレーパーク定例イベントの自然観察会に参加させていただきました。今回のテーマは「夏のいきものをさがそう」。リーフレットをもらい、カマキリなどのサンプルの提示を受け、「この森にもいるかもしれないよ。探してみよう。」と呼びかけられて始まりました。子ども 25 名、大人 15 名、勉強会参加指導員 18 名が3班に分かれました。

真鍋さんは前日のゲリラ豪雨でとても滑りやすい起伏のある森を参加者の安全や観察への興味の深まりを確認しながら巡っていました。歩ける子には名札がつけられているので古川さんは名前を確認してから「〇〇ちゃん、樹液が出ているよ。」と幼児の耳元でささやきました。すると他の子たちまで木に集まってきました。森を一周した後広場のテーブルに全員が集まり、佐藤さんから採集した昆虫の説明を受けたり、セミクイズが出題されたりしました。

3名の講師の方々は、生き物の不思議さや美しさ、いとおしさを参加者と分かち合い、そして自然の大切さを伝えていました。参加者に寄り添った観察会は心地良いと感じました。

午後は古川さんからプレーパークのあゆみや運営の工夫を伺いました。

プレーパーク(冒険遊び場)は『子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ』をモットーに大人が子どもたちの遊びを見守る遊び場である。四街道では古川さんが中心になって 2001 年から始められた。自然の良さを子どもたちに伝え、遊びの仲間や空間、時間がない今の子どもたちを何とかしたいという思いからであった。四街道市との協働事業として2004年から現地を地権者から借り、森の手入れをして遊び場をつくってきている。遊びを通して自然とふれ合い、遊びの中で自然観察をし、子どもたちの発見や感動を共有する場とした。この活動には四街道在住の当会の会員の方々も関わり活躍されている。子どもの参加費は無料。活動費は賛助会員の会費と助成金などでまかなわれ、プレーリーダー(大学生)5 名、スタッフ(父母)15 名、森の応援団の方々などで運営されている。プレーリーダーのシフトやスタッフの活動内容の見直しで負担の軽減を図ったり、視察や忘年会を行って交流を深めたりしているなどの説明がありました。

参加指導員からは地権者の方との良好な関係のもち方やけがをした時の対応の仕方について質問があり、古川さんから、今の地権者の方には年 2 回活動報告書を提出しているが、次の方とはまだ交渉がない。けがについては保険には入っている。けがをした時の状況や対応の様子を保護者に話しているが子ども自身が喜んで活動している中で起きたことなので、トラブルになったことはないなどのお話をいただきました。

この活動が里山の保全や青少年の健全育成など幾重にも貢献していることを学びました。